

# ニュース報道における 「{動名詞(VN) / 名詞(N)} +です」文について —「現地を緊急取材です」「老舗料亭に問題発覚です」—

鈴木 智美

(2009. 10. 31 受)

【キーワード】 名詞文、動名詞 (Verbal Noun)、「だ」、動作付け、ニュース報道

## 1 はじめに

最近、テレビの報道番組において、しばしば以下のような発話を耳にする。ニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際、特徴的に見られる切り出し方である。(以下、例文にはいずれも実際の発話例を採取したものをを用いる。例文末尾に「作例」と記したもののみ、執筆者が同様の例を作例したものである。)

- (1) 日本フィギュア界のエースが復活です。
- (2) (全面禁煙となった海岸について) 現地を緊急取材です。
- (3) (スズメバチ駆除の作業について) その現場に密着です。
- (4) 歌手の××<sup>1</sup>さんが交通事故です。
- (5) 老舗料亭に、またも問題発覚です。
- (6) 日本最初の公立小学校でお別れ会です。

(1) は、「フィギュアスケート界のエース選手が復活した / 復活することになった」、(2) は「現地を緊急取材する / した」、(3) は「現場に密着 (して取材を) する / した」、(4) は「歌手の××さんが、交通事故に遭った / をを起こした」、(5) は「老舗料亭に、またも問題が発覚した / 問題発覚という事態が起こった」、(6) は「日本最初の公立小学校でお別れ会が行われた / 行われることになった」ということを表し、伝えるものである。

(1) ~ (6) は、いずれも同じように新しい話題 (ニュース) を切り出す際に、いわ

---

<sup>1</sup> 以下、例文中の固有人名等については「××」あるいは「○○」と表記する。

ば“見出し”的に用いられ、形式的には文末の「名詞＋です」の形が共通している。また、「が」以外にも「を／に」等の格助詞を伴う補語が観察され、名詞文としては特異な形をとっている。

これらの文は、よく見ると形式的には2種のタイプが見られる。(1)～(3)は、文末が「動名詞 (verbal noun)<sup>2</sup>＋です」で終わる。「復活」「緊急取材」「密着」は、いずれも「復活する」「緊急取材する」<sup>3</sup>「密着する」の形で動詞化することのできる名詞である。一方、(4)～(6)の文末に見られる「名詞＋です」は、動名詞ではない<sup>4</sup>。

意味的に見れば、(1)～(3)の文は、動名詞(VN)の表す動き(例えば「復活」)が生じる、あるいは生じたこと、または動名詞(VN)の表す動作・行為(例えば「緊急取材」「密着」)が行われる、あるいは行われたことを表す。(4)～(6)は、名詞で表される事態・物事(例えば「交通事故」「問題発覚」「お別れ会」)が起こったこと、あるいは行われる・行われたことを表す。

この「現地を緊急取材です」「老舗料亭に問題発覚です」というのは、どういう文なのだろうか。本稿は、このように、ニュース報道において新しい話題を取り上げる際に特徴的に見られる「{動名詞(VN)／名詞(N)}＋です」の形をとる文について、それが「どういう構文なのか」「どのような意味を表すのか」「どういう場合に用いられるのか」を考察することを目的とする<sup>5</sup>。

## 2 「動名詞(VN)＋だ」文

ニュース報道に限らず、「『が／を／に』等の格助詞を伴う補語＋動名詞(VN)＋だ」の形をとる文であれば、以下のような場合にも観察される。

(7) おばあちゃんに席をゆずられました。牛乳に相談だ。

<sup>2</sup> 以下、動名詞を「動名詞(VN)」と表記する。

<sup>3</sup> 小林(2004:207-210)では、四字漢語動名詞のタイプ分類の中で、「緊急着陸する」「臨時停車する」などは付加詞的要素と動詞的要素で構成されるもので、「緊急」「臨時」の部分が「時間・局面」を表すものと分類している。

<sup>4</sup> ここでは、影山(1993)にならい、「する」を伴って動詞化できる表現を「動名詞」(verbal noun: VN)とする。(4)～(6)については、「交通事故」「問題発覚」「お別れ会」は、「\*交通事故する」「\*問題発覚する」「\*お別れ会する」の形にはできないため、動名詞とは考えない。

<sup>5</sup> 最近耳にすることが多いと思われるこのようなニュース報道特有の表現は、しかし、必ずしも最近になって生まれた言い方というわけではないようである。1960年頃のニュース映像が再放送された中でも、(とある一行の行動について)「新潟赤十字センターに到着です」という例が見られた。

これは、「gyunyu.com」(中央酪農会議)のキャンペーン広告に見られた文である。この名詞文も、第1節で見た「エースが復活です」「現地を緊急取材です」などの場合と同様、「『が／を／に』」等の格助詞を伴う補語(この場合の格助詞は「に」)+動名詞(VN)の形をとっている。ただし、文末は、ニュース報道の場合とは異なり、「です」ではなく「だ」で終わっている。

この広告文の表す意味は、その一連のキャンペーン広告の内容から解釈すると、およそ「私は若いのに、電車の中でおばあさんに席をゆずられてしまった。カルシウム不足で、足腰が弱そうだと思われたようだ。これは大変だ。牛乳に相談 {しよう／しなければ…!}。」ということであろう。

この「牛乳に相談だ」という名詞文に見られる特異性は、影山(1993:22-41)が指摘しているように、「相談」という動名詞自体が項構造を持ち、さらに格を付与する力を備えているということに由来すると考えられる。

通常の文ならば、相談する相手を格助詞「に」を伴って示すには、以下の(8)のように「相談する」という動詞述語をとらなければならない。

(8) 私は両親に相談する。

また、強調構文の形をとるとしても、述語部分は「相談だ」ではなく、「相談する」という動詞を「こと」で名詞化し、以下の(9)のように「相談することだ」の形にする必要がある。

(9) {大切／必要}なのは、両親に相談することだ。

あるいは、以下のように「～ {との／への} 相談」を使って、述語部分を名詞句化することもできる<sup>6</sup>。

(10) {大切／必要}なのは、両親{との／への} 相談だ。

したがって、例(7)の「牛乳に相談だ」は、仮に以下のいずれかのように述べるのであれば、構文的に、何ら不思議なものではない。

---

<sup>6</sup> 「\*～にの」という形はない。

- (11) 牛乳に {相談しよう／相談するぞ／相談しなければならない}。  
 (12) ( {大切／必要} なのは、) 牛乳に相談することだ。  
 (13) ( {大切／必要} なのは、) 牛乳 {との／への} 相談だ。

しかし、(7)「牛乳に相談だ」は、このいずれの形もとっていない。このような動名詞文の特異性は、第1節で挙げた例(1)～(3)についても同様のことが言える。例(1)～(3)も、文末の述語が「動名詞(VN)+です」であるため、動名詞の持つ各項に格が与えられ、「エースが復活です」「現地を緊急取材です」「現場に密着です」のように、『が／を／に』等の格助詞を伴う補語+動名詞(VN)+です」の形の名詞文として現れていると考えられる<sup>7</sup>。

なお、このような広告に見られる「動名詞(VN)+だ」文では、以下のように「だ」を過去の形にしたり、否定の形にするとかなり不自然になる。

- (14) ? (カルシウム不足に悩んでおり、) ぼくは牛乳に相談だった。  
 (15) ? (カルシウムは足りているので、) ぼくは牛乳に相談じゃない。

### 3 「だ」の機能

#### 3.1 「動作付け」の機能

意味的に見ると、第2節に挙げた「牛乳に相談だ」の場合には、「～に相談しよう／相談するぞ」という話し手の意気込みや決心、あるいは「～に相談しなければ…」という差し迫った状況における話し手の判断などを表すという特徴が見られる<sup>8</sup>。

このような文に見られる「だ」の機能は、高橋(1984:30)で既に指摘されているように、「動作付け」<sup>9</sup>の機能を果たすものと言ってよいのではないかと思われる。高

<sup>7</sup> その他にも、ニュース報道における同様の例としては、「首相が緊急会見です」「3人のメダリストが生出演です」「正面衝突で夫婦が死亡です」「(大臣の訪問を前に)早くも住民の怒りが爆発です」「ヨーロッパを舞台に、日本人ストライカーが躍動です」「60歳の迷惑男を逮捕です」「放火の一部始終をカメラが劇撮です」「任期途中で辞任した××市長を生直撃です」「××知事が○○国交相と面会し、持論を展開です」などの例も観察される。また、「格助詞『に』+動名詞+です」の例では、第1節で挙げた例(3)「現場に密着です」の他に「(有名若手ゴルファー)2人の一打一打に注目です」「現役最年長の××投手が古巣の西武に復帰です」という例が見られた。他にも例えば「関係者に緊急インタビューです」(作例)のような例も可能だと思われる。また、格助詞「と」を伴う例で採取できたものに、「転覆漁船の3人、家族と感動の再会です」「タレントの××さんの妹の○○さんが交通事故、路線バスと衝突です」がある。同様に「タイトル奪回を賭けて、王者××と対戦です」(作例)などのような例も十分可能と思われる。

橋(1984:30)は、「動作づけは、名詞述語の本来の任務ではない」とはしながらも、「サ変動詞の『スル』のかわりにコンピュータをつけたようなもの」が観察されるとしており、「あっしょもうこれっきり断然絶交だ!」「われわれもいよいよあす出発だ」という例が挙げられている。ただし、そこでは「動作付け」の意味的な側面についての詳細な記述は見られない<sup>10</sup>。

メイナード(2005:241)も、「だ」には我々の判断を示したり、情報を強調して提示する機能があるとし、「オートバイもリサイクルだね」という企業広告を例に挙げ、この場合の「だ」は、「リサイクルをしよう」という「動作付け」の文を構成する働きをしているとする。

このような「動作付け」の働きをする「だ」は、動名詞(VN)に付く場合に限らない。高橋(1984:30)も、それを動作付けの名詞述語文だと言い切る自信はないとしながらも、「知れるとめんどうだから、今夜のことはだれにも絶対に秘密よ」という例を挙げている。また、メイナード(2005:241)も、教師がよく使う「明日はテストですよ」(下線は引用者)のような例<sup>11</sup>も「動作付け」文であるとしている。

上記の先行研究においては、いずれも「動作付け」の意味的な側面についての詳細な記述は見られないが、示されている例にしたがって考えれば、話し手が「もう絶交することを決めた」ということを宣言したり、「われわれもいよいよあす出発することになる」という判断を示したり、「明日はテストをしますよ」という情報提示を行っていることになると思われる。

また、上記の先行研究で挙げられている例のように、動名詞(VN)以外の名詞文についても動作付けの機能を認めるならば、第1節で見た例(6)「日本最初の公立

<sup>8</sup> 広告で用いられているこのような「～に相談だ」(動名詞(VN)+だ)という形式は、意味的には、「さあ、～に|相談しよう|相談するぞ|」のような、前向きな意気込みを表す場合にまさにふさわしいのではないと思われる。また、差し迫った状況における未確定の事柄として事態を述べるならば、この構文は文末が言い切りの「だ」でなくとも、以下のような形でも容認されるのではないと思われる。「(準備も整ってきたようだ。そろそろ)××に|相談か|相談だろうか|相談だろう|相談のようだ|相談らしい|。」

<sup>9</sup> 高橋(1984)の用語では「動作づけ」である。

<sup>10</sup> 早川(1986:226)でも、高橋(1984)の挙げた「われわれもいよいよあす出発だ」などの「動作づけ」の文があることに触れられてはいるが、詳細については分析されていない。

<sup>11</sup> 高橋(1984:30)の例における「秘密」が「\*秘密する」にできないのと同様、メイナード(2005:241)の例における「テスト」も、「明日はテストですよ」の意味においては「\*テストする」の形にできないため、動名詞(VN)とは考えない。「テストする」というのは、学校において「試験を行う」の意味ではなく、「うまくいくか(できるか)どうか、やってみる」という意味(「マイクの具合をテストする」など)であれば、可能である。

小学校でお別れ会です」なども、その「です」を「だ」に置き換えて考えれば、「いよいよお別れ会を行います」などの「動作付け」を行っているのだという分析も可能かもしれない。

ただし、先行研究で挙げられている例を見る限りでは、「動作付け」とは、動名詞(VN)であっても、そうでない名詞であっても、「絶交する」「出発する」「リサイクルする」「秘密にする」「テストをする」など、いずれも話し手による意図的な「動作付け」が可能な場合のみが対象となっているように思われる。

しかしながら、第1節で挙げた例(4)(5)を見ると、「交通事故です」「問題発覚です」など、必ずしも話し手によって意図的に、「いよいよ～する」「～することに決めた」などの「動作付け」が行われているとは考えられない場合も含まれており、「動作付け」という概念だけで、これらの文を記述することは難しいのではないかと思われる。

### 3.2 話し手の発話態度を伝える機能

また、メイナード(2000, 2005)は、「だ」には、話し手の“肯定して断定する”という発話態度を伝える、「指標」として機能する場合があるとしている。話者が肯定的な断定を通して強く言い切り、確信や強調を伝える働きをするというものである。

メイナード(2000)は、このような機能を持つ「だ」を「情意の『だ』」と名付けており、話し手が強く断定し、確信や強調を伝えることを「情的態度の表明」としている。例としては、「心からありがとうございます。」」「『どうせ、わたしはバカですよーだ』」「どーせ、ノロマですよお……だ。」(メイナード(2000, 2005))などが挙げられている。

報道文に見られる「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文における「です」の機能を考えるのであれば、おそらくこの「肯定して断定する発話態度を伝える」という分析<sup>12</sup>はヒントになるであろうと考えられる。

<sup>12</sup> ただし、メイナード(2005:345)では、「心からありがとうございます」のような例についても、「だ」(「です」)は「肯定的な断定を通して強く言い切る」機能を持つとされているが、同様の例を観察すると、このような場合には、必ずしも「意図的に断定する」態度を伝えるという記述だけでは十分ではないのではないかという疑問も生じる。例えば「盛り上がっていくので、みなさんヨロシクです」「こちらこそサンキューでした」「残念ながら、です。せっかくお声おかけいただいたのにすみません」(いずれも web 上のブログ等から採取した例)などの例を見ると、このような「です」は、むしろ「よろしく」「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉をそのまま相手に言うこと、そのようにストレートに挨拶するということを避け、直接的に言うことに伴う「照れ」などの気持ちを隠しながら心情を伝える、という機能を果たしているのではないかと思われる。

確かに、ニュース報道において、話し手であるニュースキャスターが聞き手である視聴者に対し、「です」を用いることによって、自らがニュースを伝えるという言語行為についてははっきりと断定する態度をとり、同時に確信や強調を表明しているのだと考えることもできるだろう。

ただし、ニュース報道における「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文が、ニュースの解説途中にではなく、新しい話題(ニュース)を切り出す際に特徴的に観察されるということから考えると、この文の果たす機能を的確に記述するためには、「です」に伴う話し手の「情動的態度」の側面だけではなく、この構文全体の持つ意味的な側面についても着目する必要があるのではないかと考えられる。

第1節に挙げた例(1)～(6)を見ると、いずれもこのような文は、何らかの新しい動き・変化があったこと、あるいは事態が何らかの新しい局面を迎えたことなどを述べる際に用いられていることがわかる。ニュース報道における「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文について考える際には、このような点にも注意する必要があるだろうと思われる。

## 4 ニュース報道における「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文

### 4.1 形式的特徴

まず、ニュース報道に見られる「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文は、第2節で挙げた広告文の「～に相談だ」と同様、文末の「です」が過去形になったり、否定の形にして用いられることは見られない<sup>13</sup>。

- (16) a 男女合わせて、初の金メダルを獲得です。  
b ? 男女合わせて、初の金メダルを獲得でした。  
c ? 男女合わせて、初の金メダルを獲得ではありません。
- (17) a 横綱××と大関〇〇が、直接対決です。  
b ? 横綱××と大関〇〇が、直接対決でした<sup>14</sup>。

<sup>13</sup> メイナード(2000, 2005)も、話し手が強く断定し確信や強調を伝える「情意の『だ』」は、活用形は「だ」「です」に制限され、タ形は使われないと指摘している。また、今の状態を「そうではない」と否定し、断定する態度を伝える際には「じゃない」が用いられるとしている。

<sup>14</sup> 「(××選手が800メートルでメダルを獲得したのは、)男女合わせて初の金メダル(の)獲得でした」[(今日の結びの一番は、)横綱××と大関〇〇の直接対決でした]のように、ガ格やヲ格の現れない、「の」によって結ばれる通常の名詞句を形成するならば、もちろん、過去の形をとることは可能である。

- c? 横綱××と大関〇〇が、直接対決ではありません。
- (18) a (マンホールから花火の爆発音が。)住民が避難です。  
 b? (マンホールから花火の爆発音が。)住民が避難でした。  
 c? (マンホールから花火の爆発音が。)住民が避難ではありません。
- (19) a 老舗料亭に、問題発覚です。  
 b? 老舗料亭に、問題発覚でした。  
 c? 老舗料亭に、問題発覚ではありません。

また、ニュース報道において観察されるこのような文は、通常、無題文である<sup>15</sup>。ニュース報道において新しい話題を切り出す際に、以下のような形で用いられることはない。(以下(20)～(22)では、単独の文としてはもちろん成り立つが、ニュース報道において、ニュースキャスターが話題を変え、まったく新しいニュースを取り上げる際の切り出し方として、そのような表現は通常なされないという意味で「?」を付している。)

- (20)? 歌手の××さんは、交通事故です。  
 (21)? 首相は、緊急会見です。  
 (22)? ××候補は、熱い選挙戦をスタートです。(作例)

また、このような文における動名詞(VN)は、漢語動名詞に限定されるものではない。以下の例(23)の「キープです」のように、外来語の動名詞を用いた例も観察される。また、作例を試みてみると、例(22)で挙げた「スタートです」以外にも同様の発話は可能であると思われる。

- (23) (あるアーティストの曲について)5週連続トップ10をキープです<sup>16</sup>。  
 (24) ××元首相の長男が、この夏、政界デビューです。(作例)  
 (25) ××記者が、ニューヨークの今をレポートです。(作例)

<sup>15</sup> 東京外国語大学大学院総合国際学研究科における「語彙・意味研究の諸相」(2009年度1学期開講)の授業においても、このような報道における「動名詞(VN)+です」文について触れた際、受講生からは、これらの文は「～は」ではなく「～が」の形で現れるのではないかという特徴が指摘されている。

<sup>16</sup> この例文は報道番組から採取したのではなく、音楽番組内でCD売上げランキングを紹介する際の司会者の発話である。



また、以下に作例を挙げたように、和語の動名詞も可能である<sup>17</sup>。

(26) 大晦日から元旦にかけて、警察が正月暴走を嚴重に取り締まりです。(作例)

(27) ××で表彰までされた男が、会社の金を30年間使い込みです。(作例)

ただし、ニュース報道において、実際に和語の動名詞がこの形の文で使用されることは比較的少ないのではないかと予測される。新しいニュースを切り出す際には、漢語動名詞の方が、いわば「見出し」的に端的に事柄を伝えるには適していると思われること、また和語と漢語による文体の違いも影響するのではないと思われる。

#### 4.2 意味的特徴(1)―新しい動き・変化を伝える

意味的に見ると、3.1節でも触れたように、このようなニュース報道に見られる「{動名詞(VN)/名詞(N)}+です」文は、必ずしも「動作付け」の意味を表しているということだけでは記述しきれない。

「動作付け」の意味を、先行研究で示されている例にしたがって、話し手によって「～することに決めた」「いよいよ～することになる」などのことが宣言されるものと考えれば、その「動作」には、典型的には、以下のように、いずれも話し手によって意図的に取り組むことが可能な動作・動きが対象となるのではないだろうか。

(28) (選手が「今年の目標は?」というインタビューに答えて)

今年は、世界新に挑戦です。(=世界新に挑戦します/いよいよ挑戦することになります)(作例)

(29) (選挙に落選した代議士が地元の支持者たちに)

これから気持ちを入れ換え、新しい戦いをスタートです。(=スタートします/スタートすることに決めました)(作例)

<sup>17</sup> 影山(1993:33)では、和語の動名詞のうち「立ち読み」「貸し借り」「がぶ飲み」のようなものは、「\*立ち読む」「\*貸し借る」「\*がぶ飲む」という複合動詞から直接派生されたものではなく、項構造は備えているが、格付与の力はない「格なし動名詞」とされている。ただし、このタイプの和語動名詞でも、本稿で問題にしている構文においては、「男がフィルムを切って漫画本を立ち読みです」「(なんと/驚いたことに)銀行幹部が業務中に印鑑を貸し借りです」(いずれも作例)のように、ニュース報道としての内容および文体が整えば使用不可能ではないように思われる。

しかしながら、第1節で挙げた例(4)「歌手の××さんが交通事故です」、例(5)「老舗料亭に、またも問題発覚です」などを含め、ニュース報道において「動名詞(VN)／名詞(N) + です」が用いられる場合を考えてみると、必ずしも話し手によって「いよいよ～する」「～することに決めた」などの「動作付け」が行われているとは考えられない場合も多い。

以下の(30)～(32)はいずれも作例であるが、ニュース報道においてこのようなニュースの切り出し方がなされることは十分可能であると思われる。

- (30) 飛行中の機体から、二度も車輪が落下です。(作例)
- (31) 保険会社2社が顧客データを紛失です。(作例)
- (32) 交番で拳銃が暴発です。(作例)

これらの例に見られる動名詞(VN)「落下(する)」「紛失(する)」「暴発(する)」は、いずれも、意図的にそれに対して取り組むことが可能な動きを表すものではない。これらの「動名詞(VN) + です」文が、「いよいよ落下することになる」「いよいよ紛失することになった」などの意味を表しているとは考えられず、これらの文が「動作付け」の機能を果たしているとは思われない。

ニュース報道における「動名詞(VN)／名詞(N) + です」文には、むしろ、3.2節でも触れたように、何らかの新しい動き・変化があったこと、あるいは事態が何らかの新しい局面を迎えたことなどを、新しい話題(ニュース)として初めて聞き手に伝える、という場面で用いられるという特徴が見られる。

したがって、例えば「安定(する)」という動名詞(VN)を例として考えてみると、「安定している」という状態を表すのではなく、以下の(33a)のように、「新たな局面を迎えて、安定する状態となった」という、何らかの「動き・変化」を表す場合でなければ、ニュース報道におけるこの形の文としては使用しにくい。

- (33) a. 約3か月ぶりに、株価が安定です(=安定した)。(作例)
- b. ここ1年間、株価が安定です(=安定している)。(作例)

(33b)については、ただ「1年間ずっと安定している」ことを述べるのではなく、例えば「それまでは不安定だった株価がこの1年間は珍しく安定している」というように、新しい事態の発生を述べる意図であれば、可能である<sup>18</sup>。

他にも、例えば「評価(する)」という動名詞(VN)であれば、「ずっと評価してきた」ことを述べるのではなく、以下の(34a)のように「新たに評価することとなった」という変化を述べる場合の方が、この構文にはふさわしいと思われる。

(34)a. 県が、新たに、××団体の取組を評価です(=評価することになった)。(作例)

b. 県が、1年間、××団体の取組を評価です(=ずっと評価してきた)。(作例)

(34b)は、「それまで評価しなかった県が、今年は珍しく1年間評価する態度を維持している」などのように、事態が新しい局面を迎えたことについて述べるのであれば、可能であると思われる<sup>19</sup>。

#### 4.3 意味的特徴(2)―動名詞(VN)と名詞(N)の場合

述語部分の「動名詞(VN)+です」あるいは「名詞(N)+です」は、いわゆる「うなぎ文」<sup>20</sup>ほどに、様々な意味を表すことができるわけではない<sup>21</sup>。その表す意味は、およそ以下のようにタイプ分けできるようである。

まず、「動名詞(VN)+です」文の場合は、「VN {する/した}」という意味を表す。意図的に取り組むことのできる動作・動きのみを表すとは限らない。ただし、「いよいよVNすることになった」あるいは「VNしよう」のように、「動作付け」と解釈することも可能な場合もある。

(35) 日本フィギュア界のエースが復活です。(=復活した/いよいよ復活することになった)

(36) 現地を緊急取材です。(=緊急取材した/緊急取材することになった)

<sup>18</sup> 例(23)の「5週連続トップ10をキープです」についても、「5週連続して10位以内を保っている」という事態を、ある種の記録的な事柄の発生として述べているものである。

<sup>19</sup> ただし、新しい動きや変化、あるいは新たな局面を迎えることを表すものであっても、「死去(する)」は用いられにくいようである。「?ヨーロッパ音楽会の巨匠が95才で死去です。」(作例)は不自然に感じられる。

<sup>20</sup> いわゆる「うなぎ文」とは、「AはBだ」という名詞文の述部「名詞(B)+だ」の部分が、「名詞(B)+格助詞+「動詞/形容詞」」の代用をしていると考えられるとされるものである。文脈によって、様々な解釈が可能であるとされる(奥津(1978)など)。「うなぎ文」自体の解釈の詳細については、ここでは立ち入らない。

<sup>21</sup> メイナード(2005:242)は、「だ」がいろいろな機能を果たすのは、「だ」が動詞文の代用をするからだとする説もあるとしている。

- (37) 官邸の動きに注目です。(作例) (=注目しよう／注目しなければならない)
- (38) 家族と感動の再会です。(=再会した／いよいよ再会することになった)
- (39) 約3か月ぶりに株価が安定です。(作例) (=安定した／安定することになった)
- (40) 保険会社2社が顧客データを紛失です。(作例) (=紛失した)

動名詞以外の「名詞(N)+です」文の場合は、「Nで表される物事・事態が{起こった・生じた／起こっている・生じている／起こる・生じる}」という意味を表す。

- (41) 老舗料亭にまたも問題発覚です。(=“問題発覚”という事態が起こった／起こっている)
- (42) 日本最初の公立小学校でお別れ会です。(=“お別れ会”という事が起こった、お別れ会が行われた)
- (43) 政府高官に賄賂の疑いです。(作例) (=“賄賂の疑い”という事態が生じた／生じている)
- (44) 突風に要警戒です。(作例) (=“要警戒”という事態が生じている)
- (45) ××被告に今日、判決です。(作例) (=“判決”という事が生じる、判決が言い渡される)

「名詞(N)+です」文でガ格の補語を伴う場合には、「ガ格で表される主体がNで表される動き・事態を{起こした／起こしている}」の意味になる場合がある。

- (46) 歌手の××さんが交通事故です。(=歌手の××さんが交通事故を起こした)
- (47) 後継者選びを巡って、××一族が骨肉の争いです。(作例) (=××一族が、骨肉の争いを起こしている)

## 5 まとめ

以上、本稿では、ニュース報道においてしばしば観察される「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」文について、そこに見られる特徴について考察した<sup>22</sup>。

この構文の形式的・意味的特徴は以下のように整理される。

(48) 形式的特徴：

- ・「{動名詞(VN)／名詞(N)}+です」の形をとる。
- ・「が／を／に」等の格助詞を持つ補語を伴う。
- ・無題文である。
- ・過去形や否定形では現れない。

(49) 意味的特徴：

- ・報道番組等でニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際、その切り出し方として特徴的に観察される。何らかの新しい動き・変化があったこと、あるいは事態が何らかの新しい局面を迎えたことを、新しい情報として聞き手に伝えるという機能を持つ。
- ・「動名詞(VN)+です」文の場合は、「VN {する／した}」「VN することになった」「VN しよう／しなければならない」などの意味を表す。

例：「フィギュア界のエースが復活です」「現地を緊急取材です」「官邸の動きに注目です(作例)」「家族と感動の再会です」「3か月ぶりに株価が安定です(作例)」「保険会社2社が顧客データを紛失です(作例)」等

- ・動名詞以外の「名詞(N)+です」文の場合は、「Nで表される物事・事態が{起こった・生じた／起こっている・生じている／起こる・生じる}」という意味を表す。

例：「老舗料亭に問題発覚です」「日本最初の公立小学校でお別れ会です」「政府高官に賄賂の疑いです(作例)」「突風に要警戒です(作例)」「××被告に今日、判決です(作例)」等

- ・動名詞以外の「名詞(N)+です」文で、ガ格の補語を伴う場合には、「ガ格で表される主体がNで表される動き・事態を{起こした／起こしている}」の意味になる場合がある。

例：「歌手の××さんが交通事故です」「後継者選びを巡って、××一族が骨肉の争いです(作例)」等

<sup>22</sup> なお、報道番組等においては、ニュースキャスターが次の話題に移る際、「次です」という表現もしばしば用いられるようになっている。この「次です」という名詞文は、主題を示す「～は」も伴わず、その他の補語も伴わないという特異な形をとっている。「次です」は「次へいきます」「次の話題へ移ります」という意味を表し、それを聞き手に宣言する働きをしているのではないかと思われる。また、同様の場面では「続いてです」という表現がされている例も観察される。

報道番組のニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる場合以外に、この構文が同様の機能を果たすことがあるだろうか。引き続き観察を続け、分析の精緻化を目指すことを今後の課題としたい。

## 引用文献

- 奥津敬一郎(1978)『「ボクハ ウナギダ」の文法一ダとノー』くろしお出版  
影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房  
小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房  
高橋太郎(1984)「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』第3巻第12号 明治書院 pp.18-39  
早川勝広(1986)「文の類別の観点—表現文法序説」『学大国文』29 大阪教育大学国語国文学研究室 pp.209-227  
メイナード、泉子・K(2000)『情意の言語学—「場交渉論」と日本語表現のパトス—』くろしお出版  
メイナード、泉子・K(2005)『[日本語教育の現場で使える]談話表現ハンドブック』くろしお出版

## 事例採取

- 「スーパーニュース」(フジテレビ)  
「イブニングワイド」(TBS テレビ)  
「THE・NEWS」(TBS テレビ)  
「リアルタイム」(日本テレビ)  
「真相報道バンキシャ!」(日本テレビ)  
「おはよう日本」(NHK テレビ)  
「ミュージックステーション」(テレビ朝日) 他  
(いずれも 2008 年 9 月～2009 年 11 月にかけて採取)